

令和4年度第1回埼玉県高齢者支援計画推進会議 会議録

日時：令和4年7月21日（木）

質疑応答

| 発言者 | 発言要旨 |
|--------|---|
| 1 議事 | 第8期埼玉県高齢者支援計画の進捗状況及び埼玉県認知症施策推進計画の進捗状況について |
| 鹿嶋委員 | <p>資料1-1で、低調な原因の中の、オンライン事業の導入については、大学のセキュリティ上の問題やサポート体制の環境が未整備等の理由があるということですが、セキュリティ上の理由とは何でしょうか。こういうことこそ、オンラインが一番わかりやすいんじゃないのかなという気がするのですが教えてください。</p> |
| 高齢者福祉課 | <p>各大学では、オンライン授業をする際に、セキュリティを確保するために、オンライン上でパスワードの設定等を行っています。学内の学生についてはきちんと設定されている大学がほとんどだと思うのですが、外部の聴講生の方のオンライン上での設定が進んでいない大学があるということで、このような回答となっております。</p> <p>もちろん、オンライン講座をやってらっしゃる大学も多数ございますが、一部の大学につきましては、まだそこまで外部の方については進んでいなかったということがございます。</p> |
| 鹿嶋委員 | <p>受講者が高齢者であるということが、何らかの理由になっているのでしょうか。</p> |
| 高齢者福祉課 | <p>受講者が高齢者であるからという理由ではなくて、外部の聴講者に対して、大学側の方のセキュリティ上の設定がうまくいってなかったということ</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>です。受講を申し込まれる方は、オンラインの授業を受けたいというご希望で申し込まれる方も多数ございます。</p> |
| 鹿嶋委員 | <p>そうであるならば、なおさら大学の方に少し頑張ってもらえないんじゃないのかなと思いますので、よろしくお願いします。</p> |
| 高齢者福祉課 | <p>ご意見ありがとうございます。 今後は各大学の方に協力を求めながら進めていきたいと思います。また、働きかけの仕方等を少し工夫して参りたいと思います。</p> |
| 奥山委員 | <p>意見という形で提出をさせていただきましたが、計画の本筋に該当するものではないと自覚はしておりますが、保険者の機能の強化の推進というその施策に鑑みた時に、やはり効果的効率的な視点で考えた場合に、私どもが関与している事業の中に、こういう課題がございますということを、皆様にご知っていただくとともに、今後の課題としても、皆様に受けとめていただき、何らかの対策が今後できていければいいのかなということで、書かせていただいたものでございます。</p> <p>私どもの連合会の方では、医療費の請求だけではなくて、介護給付費の審査支払事務につきましても、保険者様から受託をしております。</p> <p>当然サービスの事業者から毎月請求がくるわけですが、この請求の手段というのが、今は基本として、電子申請、これはインターネット経由によるものになりますが、大体8割程度まで拡大をして参りました。</p> <p>しかしながら、依然として、CDRとか、USB、ごくわずかですけれどもフロッピーディスク等も活用されております。</p> <p>また、電子媒体だけではなく、ファクシミリによる請求、或いは、紙の様式による直接の請求が全体として月6,000件ぐらいありますので、これを作成</p> |

| | |
|---------------------|---|
| <p>地域包括 ケア課</p> | <p>したり、或いは保存したりというやりとりが毎月発生しているところです。</p> <p>これは保険者の方のチェックもさることながら、事業者さんの方でも、毎月毎月、紙で作成して、請求をするという繰り返しが発生しているところです。</p> <p>これが当然だと思えばいいんですけども、今は電子申請で、紙を使わない形で行うことが可能になっていますので、こうした従来からあるやり方を、徐々に電子申請の方に、ペーパーレス化を進めていくことで、双方ともに効率的な運用ができてくるのではないかなと思ったところです。</p> <p>また、事業者におかれても、必要な事業の改善といったことに人の手を向けることができると思いますので、こういった趣旨も含めまして書かせていただきました。</p> <p>ご意見ご質問ありがとうございます。介護保険の介護サービス事業所によります介護給付費の請求につきましては、平成30年4月から、原則、電送または電子媒体でということになっています。</p> <p>ただ、一部例外として、紙媒体による請求が見られます。</p> <p>これは支給限度額管理が不要になっているサービス事業者、或いは従業者の方が65歳以上の高齢であったりする事業者というのは、平成30年3月までに届け出をしますと、紙媒体署名による請求が認められています。</p> <p>ただ、原則は、電子申請といえますか、電子化といえますか、そういう方法によるとなっております。紙媒体による請求は、平成28年度は月間でおよそ1万7,000件だったところが、令和3年8月は、先ほど数字を挙げていただきましたが、6,000件ほどということで大きく減ってはいるということですが、お話いただいたとおり、依然として一定程度見られるというところでございます。</p> <p>県といたしましては、介護サービス事業所におけるICTの導入といった</p> |
|---------------------|---|

| | |
|-------------|---|
| <p>奥山委員</p> | <p>ものを支援しておりまして、モデル事業を行っているところでございます。</p> <p>介護現場の皆様の負担軽減のためには、県といたしましても、請求事務の効率化は大変重要であると考えておりまして、こういった介護現場の事務の電子化を引き続き推進して参りたいと考えております。</p> <p>ご回答いただきましてありがとうございます。</p> <p>ご発言ありましたとおり、紙媒体による請求は徐々に減ってきていますが、依然として残っておりまして、これをなかなかゼロにしていくのが難しいことかなと私どもも考えているところですので、様々な場面で、その啓発を、それから事業者に依頼をしていくしかないかなと思うことが一つあります。</p> <p>それから、結構請求の事務に人手がかかっていますので、事業者さんもそこをもう少し、根本的な考え方といいますか、立ち返っていただいて、ICTを進めることで、最終的には、効率化という視点で、人件費の削減とかそういうことを進めることができるので、そういった趣旨からも、啓発や、皆様へのご理解を深めていただくという形を進めていきたいと思っています。</p> |
| <p>議長</p> | <p>国におきましても、今回奥山委員からいただいた介護給付費の審査支払事務の関係ではございませんけれども、全体といたしましては介護分野における文書負担等の軽減に関する議論ということで、社会保障審議会の介護保険部会や、規制改革推進会議のワーキンググループ等でいろいろと今議論が行われているところでございます。</p> <p>ただなかなか一気にICT化ということで、紙を全部減らせるかというのと、なかなか難しいんじゃないかというようなお話もございますので、奥山委員のお話にございましたように、様々な場面を通じて、啓発ですとか、国</p> |

| | |
|---------------------|---|
| | <p>と歩調を合わせて県の方も行っていきたいと思っております。</p> |
| <p>2 報告 事項</p> | <p>埼玉県ケアラー支援計画について</p> |
| <p>宮崎委員</p> | <p>ヤングケアラーの話ですけど、今調べていたら埼玉県のホームページでLINEのQRコードが出てこないのですが、どこで見られますでしょうか。他の県は「ヤングケアラー LINE」と入れるとQRコードがたくさん出てくるんですけど。</p> |
| <p>地域包括 ケア課</p> | <p>現在、9月スタートに向けて準備をしていますので、その頃になりましたら、QRコード等いろいろな場所で、広報等で使いたいと思っています。</p> |
| <p>宮崎委員</p> | <p>当協会では支援の啓発活動に参加させていただいているので、もしQRコード等があれば協力したいと思っていますので、是非よろしく願います。</p> |
| <p>3 その他</p> | |
| <p>富家委員</p> | <p>高齢者支援計画の内容についての質問ですが、84ページのところに、特別養護老人ホームにおける介護ロボットの導入率が現状値（令和元年度）51%と出ております。</p> <p>私どもの社会福祉法人の特別養護老人ホームは、こういった介護ロボットが入っていないものですから、51%も入っていることにすごく驚いています。一体どんなロボットが、埼玉県の半数の特別養護老人ホームに入ってるのか教えていただければと思います。また、もし有効な介護ロボットがあればご紹介いただければと思います。</p> |

| | |
|--------|---|
| 高齢者福祉課 | <p>介護ロボットがどんなものが入っているのかというご質問ですが、現状値（令和元年度）は51%となっていますが、令和3年度の調査では、さらに上がりまして68%を超えている状況でございます。これは、いわゆる見守りのロボット、離床センサーも含めて、見守りの機器がかなり大きな部分を占めておりまして、導入した特養の56%で導入されており、この指標のパーセンテージを上げている要因でございます。</p> <p>その他、導入の割合が多い機器といたしましては、移乗介護、それから入浴支援を行うものが比較的高い割合となっております。</p> |
| 富家委員 | <p>見守りの機器というと、私どもの施設で使っているものでいうと眠りスキャンとか、あとはセンサーマットになるのかなというふうに思います。それから、入浴介助のような場面で使うものとするとはハルがあると思いますが、ハルを使っているところはほとんどないような気がします。また、リフトだとするとロボットじゃないような気がするんですけど、ロボットとは何でしょうか。</p> |
| 高齢者福祉課 | <p>いわゆるイメージとしてのロボット、例えばトイレに行く時に移動を介助するのものですとか、それから、コミュニケーションのロボットなども、数少ないですが入っております。</p> |
| 富家委員 | <p>特別養護老人ホームに50%以上入っているロボットは、いわゆるロボットではないものも含んでいますか。</p> |
| 高齢者福祉課 | <p>ロボットの定義をかなり広く取ってるっていうことでございます。先ほどの眠りスキャンですとか、それらも含めています。</p> |

| | |
|--------|--|
| 富家委員 | <p>ロボットを導入する際に多少補助が出ていたと思いますが、ロボットの定義を広く取っているというのと、補助対象のロボットは同じと考えていいのかわかになります。以前に、これはロボットではありませんって言われて補助を断られたような記憶もあるんですけども、それであれば、どのようなロボットであれば補助が下りますというように教えていただくことはできますか。</p> |
| 高齢者福祉課 | <p>ロボットの補助の対象となる機器については、県のホームページで、この機器は対象になりますというのを出しております。</p> <p>それから、県のホームページに掲載されていないものに関しては、個別に、県に問い合わせ頂いて、それが介護ロボットの補助金として対象になるかどうかというのは判断させていただいております。</p> |
| 富家委員 | <p>補助金の対象となるロボットの補助件数と高齢者支援計画にカウントしている数字はまた違う数字になるんですか。</p> |
| 高齢者福祉課 | <p>高齢者支援計画に記載している現状値51%とか先ほど申し上げた実績値の68%というのは、毎年8月1日現在で、県内の各特養に対して、介護ロボットを導入されているか、どういう利点があるか、問題があるかなどといったアンケート調査結果を基に集計したものでございます。</p> <p>ですから、直接補助した件数とはリンクはしておりません。</p> |
| 富家委員 | <p>この数字はヒアリングの数字ってことですね。</p> |
| 高齢者福祉課 | <p>おっしゃるとおりでございます。</p> |